

# トウカムリ



△  
ウニを食べるグルメな  
トウカムリ  
(水槽番号303)

# 水族館へ行こう!

## 京都大学白浜水族館

19

## 白山 義久

京都大学白浜水族館駐  
車場に面した所に小さな  
プールがあり、その壁に  
はいろいろな大型の貝殻  
があらわれている。そ

む貝だが、最近では温暖化  
の影響か、紀伊半島でも  
しばしば採集される。表  
面は灰色で何の変哲もな  
い貝だが、口部は薄いオ  
レンジ色で美しい光沢が  
ある。大きなものでは、  
長さが30cmを超えること  
もある。その見事な殻は、

グルメでウニを食べる。  
たくさん生えているとげ  
をもともせず獲物の  
上にのしかかかって、ヤス  
リのような歯舌で殻に穴  
を開け、吻(ふん)を差  
し込んで中身を食べる。  
詳しくは水族館のホーム  
ページで見てください。

ぶと)、種小名の *cornutus* は角という意  
味だ。貝殻がヘルメット  
のように大きく、ふちに  
角のような突起が並んで  
いるので、その名付けら  
れたのだろう。  
トウカムリを漢字で書  
くと「唐冠」である。唐  
時代の官吏がかぶってい  
た冠のことだが、社会の  
教科書に出てくる豊臣秀  
吉がかぶっている帽子と

# 「兜」と「角」を持つ巻き貝

の中でひときわ肉厚の巻  
き貝がトウカムリだ。  
もともと亜熱帯・熱帯

そのまま置物にしたり、  
加工してランプの傘にし  
たりされている。

この貝の学名は「*Cornu-  
sis cornutus*」(カシス コルナ  
タス)。生物分類の方法  
を確立したスウェーデン

いえば、ピンとくる人が  
多いだろう。  
秀吉はよほど唐冠がお  
気に入りとみえて、角が  
2本出ている唐冠型兜を  
愛用した。東西いずれの  
人にも、この貝の特徴は  
同じように見えたらし

のさんご礁が発達してい  
るような海域の砂地にす

白浜水族館では生きた  
貝を見ることが出来る。  
といっても口を下にして  
砂に少し潜っている姿

の博物学者リンネが記載  
したものだ。名前はラテ  
ン語に由来するのでみな

意味があり、この種の属  
名 *Cornus* は兜(か  
実験所長)

は、背景に溶け込んでお  
り、注意して見ないと分  
からない。この貝は結構

から

い。 (京都大学瀬戸臨海